

専門部会（共通部会）での主な意見

H19.2.27 開催

1. 適正規模及び統廃合基準について

検討するうえでの視点について

学習機会の保障...通学可能なエリア

学習内容の保障...教員配置（開設科目）、部活動等の課外活動の充実

県の財政状況

適正規模の下限について

3学級以上を支持する意見

3学級以下の高校が12校、4学級が8校という現状と今後の生徒数減少を考えた場合、適正規模の下限を4学級以上とするのが適当か。

基本は3学級以上とし、そのことで生じる課題には運用で対応してはどうか。現行の統廃合基準の対象が2学級の高校となっていることから、3学級以上とするのが適当ではないか。

4学級以上を支持する意見

現行の適正規模を変更するだけの状況変化はないため、4学級以上が適当。ただし、地域の実情は考慮する必要がある。

小規模校にも良さはあるが、教員数が少ないと十分な学習内容を保障できない。

その他

普通科と専門学科で異なるのはどうか。

部活動や学校行事と学校規模の関係について

小規模では、学校行事では生徒全員が役割を担うことになるため、規模の大きい学校よりも学ぶことが多い。

部活動も数だけでなく、実質的な活動状況や加入率もあわせて考えるべき。

小規模校について

魅力づくりをどのようにしていくのが課題。

小規模な専門高校では普通教科担当教員の配置が課題。

小規模校も多様化している生徒の学習ニーズに対応し、その役割を果たしている。

「適正規模」という表現について

「適正規模」という表現は、これから外れると不適正又は再編成の対象というイメージが生まれ好ましくないのではないか。

「望ましい規模」という表現の方が適当ではないか。

2. その他再編成全般について

10年という計画期間は適当か。もう少し短い期間で考えた方が良くはないか。教育の機会を保障する観点から、通学条件が不利な地域をどのように考えるのか。不登校の生徒、中途退学者あるいは学力向上も視野に入れた検討が必要。どの地域にどのようなシステムの学校をつくるかという方針が必要。学校規模を維持するため、普通科と専門学科の併設化も考えてはどうか。公共交通機関を有効利用する観点から、通勤とは逆方向の通学を考えるなど新しい発想も必要。